

## つかのまの陽の光

少し寒くなった午後の  
陽の光を浴びながら  
西へ向かう鳥たちにも  
うつろな鳴き声が聞こえてくる

我が子のこともわからぬほどに  
年老いてしまっても  
今よみがえる子供の頃に  
遠くを見つめながら

杖について歩く姿に  
涙も枯れてしまう

すいぶん昔の出来事を  
まるで昨日のことのように  
幼い頃の我が子のことを  
妄想に浮かべながら

笑いながら走った日よ  
あの頃は帰らない  
今よみがえる若い頃を  
打ち碎く残酷さ

年をとつてどうなるか  
誰にもわかるはずない